

キシノウエトタテグモ

岡山県：情報不足

クモ目

Latouchia typica (Kishida)

環境省：準絶滅危惧

トタテグモ科

選定理由

岡山県における既往記録は少ない。古い民家等の地中に生息するため、再開発等により生息環境は減少傾向にあると考えられる。

存続を脅かす要因

土地造成（都市化、農地造成）

分布状況

本州、四国、九州に分布する。
岡山県では岡山市で記録がある。

生息情報

体長は雌が約 15mm、雄が約 10mm。体色は紫褐色。眼は頭胸部の前方中央部に 8 眼が固まって配置される。古い民家の庭や城跡の石垣、神社の境内など人の生活に身近な場所で、地中に穴を掘って生活する。キノボリトタテグモと同様に穴の出口には片開きの扉をつける。獲物の捕らえ方も同様である。

特記事項

冬虫夏草のクモタケは本種に寄生する。

文献番号 29

(野嶋宏一)



撮影：鶴崎 展巨



ノジマヒメグモ

岡山県：準絶滅危惧

クモ目

Theridion nojimai Yoshida

環境省：該当なし

ヒメグモ科

選定理由

岡山県における既往記録は少ない。これまでの採集状況から、自然海岸の草地を生息環境とする可能性が高い。このような環境は、海岸開発により減少傾向にあると考えられる。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

本州（三重県、京都府、岡山県）、南西諸島に分布する。
岡山県では玉野市で記録がある。

生息情報

体は小さく体長約 1.5mm。頭胸部は雌では黒褐色、雄では黄褐色。腹部はともに白色で黒斑がある。岡山県玉野市で採集された雌個体を模式標本として新種記載された。自然海岸の草地に生息するようで、これまでの採集記録は全てそのような環境である。このため、生息環境は減少傾向にある可能性が考えられる。

文献番号 167

(野嶋宏一)

